
■ 第4編 平成24年度調査結果の概要と今後の調査方針

調査項目別の平成24年度調査結果の概要及び今後の調査方針について表4-1に示した。

表4-1 工事10年次の環境モニタリング調査の概要

分野	大項目	中項目	詳細項目	目的	平成24年度調査結果概要	報告書 参照ページ	今後の調査方針
地形	干潟地形 調査	地形測量 (陸上部)	航空レーザー計測、カラ ー航空写真撮影	干潟地形の変化を把握	<ul style="list-style-type: none"> ・朔望平均干潮位による干潟の面積は、H24.11月に約911,000m²、H25.3月に約938,000m²であり、H24年4月以降、出水の影響によって面積が減少したものの、H25.3月には増加する傾向が見られた。 ・年平均干潮位による干潟の面積は、H24.11月に約402,000m²、H25.3月に約427,000m²であり、H25.3月の面積はH16.11月以降最大となった。 ・平成24.4月と平成24.11月を比較すると、河川部に堆積の傾向、河口干潟東側では洗掘の傾向が見られ、平成24年11月と平成25年3月を比較すると、全体的に洗掘の傾向が見られた。 	第3編 第2章	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度も引き続き調査を年2回(春季、秋季)実施する。
		深淺測量 (水中部)	河川横断測量				
基盤 環境	干潟部基盤 環境調査	干潟部分 (陸上部) 春季、秋季 調査	測位、地盤高計測、表層 粒度組成 193地点/2回	干潟上の生息環境にお ける物理環境を把握	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤高は、河口干潟、住吉干潟ともに大きな変化は見られなかった。 ・粒度組成でみると河口干潟は砂分主体の干潟であった。また、住吉干潟は河口干潟に比べ含泥率が高い傾向にある状況は、これまでと同様であった。 	第3編 第3章	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度も引き続き調査を年2回(春季、秋季)実施する。
鳥類	指標種生息 状況調査	干潟全域 対象 春季、秋季	種名、個体数 4地点/4回	鳥類の生息状況を把握	<ul style="list-style-type: none"> ・調査区域で確認されたシギ科・チドリ科の鳥類は、出現種類数は14種、出現個体数は延べ6,812個体であり、平成17,18,20年度と同程度であるものの、平成21,22,23年度に比べると少ない結果となった。 ・主な出現種は、過年度同様にハマシギ、シロチドリ、ダイゼンであった。 ・エリア別にみると、種数、個体数共に、エリア②が他のエリアに比較して多い。 	第3編 第4章	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度も引き続き調査を実施する。 ・年4回(春の渡り2回、秋の渡り2回)実施 ・既設橋地点での調査は実施しない。
		飛翔状況 調査	架橋地点調 査 既設橋地点 調査 春季、秋季	種名、個体数、行動目的、 飛翔高度、飛翔経路 1地点/4回(架橋) 1地点/2回(既設橋)	構造物の有無による 鳥の飛翔形態の把握		
		吉野川河口 東端 春季、秋季	1地点/2回	吉野川河口への飛 来・飛去状況を把握	<ul style="list-style-type: none"> ・11月と3月の調査において、吉野川河口に飛来する鳥類が飛去する数より多い結果となった。 ・シギ科・チドリ科の場合、11月調査では飛来した数のうち、約98%が干潟に滞在し、架橋地点を飛翔する数はほぼ見られなかった。3月調査では吉野川河口より飛去する数の方が飛来する数より多く、飛翔した数のうち、約4割が架橋地点を飛翔した。 		
ウモレマメ ガニ	ウモレマメ ガニ分布調 査	橋脚周辺部	個体数 18地点/3回	橋脚周辺部の生息状 況を把握	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に288個体、4月に256個体、5月に179個体の生息を確認し、橋脚周辺部に数多く生息している状況を確認した。 ・これまでの調査で砂質を好む傾向が見られており、本調査においても砂気のある柔らかい砂泥の底質であり、さらに何らかの生物の生息孔が多く見られる地点で数多く生息することを確認した。 	第3編 第5章	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した調査によって豊富な生息を確認したため、平成24年度をもって終了とする。